

第十八部

第二回 參議院決算委員会會議録 第十五号

昭和二十三年六月一日(火曜日)

本日の会議に付した事件

○中小企業廳設置法案(内閣提出、衆議院送付)

○電波物理試験所を電氣試験所に統合する法律案(内閣提出)

○決算の審査方針に関する件

午前十時三十六分開会

○委員長(下條重慶君) 只今から決算委員会を開きます。中小企業廳設置法案を議題といたします。これはすでに商業、鉱工業等との連合委員会におきまして相当審議いたしまして、小委員会において修正案もできておりますのですが、尙この際若し御質疑でもありますれば願いまして、大体質疑を終りますれば願いまして、何か御質疑はございましょうか。……それでは質疑は終つたことと考えてよろしくございます。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(下條重慶君) それでは質疑は終つたものといたします。それではこの法案につきまして御意見をお述べを願いたいと思いますが、一應速記を止めまして、そらしていろいろ懇談したいと思いますが、如何でしようか。

○委員長(下條重慶君) 速記を止め午前十時三十七分速記中止

○委員長(下條重慶君) 速記を始め

障害の予報とその対策でございます。その二番目といたしましては、通信参つたのであります。

障害の予報とその対策でございます。その二番目といたしましては、通信参つたのであります。

障害の予報とその対策でございます。その二番目といたしましては、通信参つたのであります。

障害の予報とその対策でございます。その二番目といたしましては、通信参つたのであります。

(258)

て。それでは質疑は終りましたから討論に入らわけであります。その前に各党の御意見を予めお決め願つて置いた方が適當と思われますので、この中小企業廳設置法案については、今日はこの程度に止めて置きたいと思います。この際通信政務次官から発言を求めるべきであります。

○政府委員(下條重慶君) 前回電波物理研究所と電氣試験所を統合する問題につきまして御審議願いましたところ、前回におきましては採決をお述べになるよう御決定願つたのでございましたけれども、以下申上げますような理由によりまして、通信省といたしましては至急御審議の上御通過をお願いいたしたいと存じますので、その理由を申上げます。

第一番の理由といたしましては、通信事業における電波研究の國際的協力の問題でございます。主としまして

電波研究は、國際的規模を要するのでございまして、研究の計画、準備又実施は通信事業の中につきまして、それを願いたいと思いますが、一應速記を止めまして、そらしていろいろ懇談したいと思いますが、如何でしようか。

○委員長(下條重慶君) 速記を止め午前十時三十七分速記中止

障害の予報とその対策でございます。

は最近に至りましては一應可能性を認められるに至つたのでござりますけれども、これを通信の実施に一日も早く應用して事業障害を未然に排除いたしまして、業務の円滑な運営を図るためには電波物理の研究を電氣通信研究の各部門と深く結合しますと共に、細部の通信系統に直結いたします。かかる関係があるでござります。かかる関係

障害予報の能勢を急速に整備する必要があるでござります。かかる関係

の通話系統に直結いたします。その

電波物理研究所の移管の遅延は事実の運営上から申しましても多大の不

利を招來しているのでござります。最近の通例は太陽黒点の爆発による对外

は、電波物理研究所の移管の遅延は事

業の運営上から申しましても多大の不

利を招來しているのでござります。最近の通例は太陽黒点の爆発による对外

○委員長(下條康麿君) 大体質疑は終つたことにして、よろしうございましょか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○委員長(下條康麿君) そうしますと、引き続き討論に入つてよろしくございましょか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(下條康麿君) どうぞ御意見をお述べ願いたいと思います。

○小野哲君 この法律案を見ますと、電波物理研究所を電気試験所に統合するということで、只今政府委員からの御答弁もありましたような考え方で作られたものと思うであります。で、この法律案自体につきましては、内容その他において別に反対すべき筋合のものでないと考えます。ただ前回の委員会において私がから発言いたしましたように、國家行政組織法案の審議に当たりましては、この種試験所或いは研究所等の施設の設置に関する取扱につきましては、十分に検討を加えられる必
要があろうと考えております。従つて一般論としてどう処置するかは國家行政組織法案の審議に委ねることにいたしまして、この法律案自体は私は可決すべきものと考えて賛意を表したいと
思います。

○北村一男君 私も小野委員と同様の見解で、これは今政務次官から御説明があつたように早急に可決さるべきものと考えております。

○委員長(下條康麿君) それでは他に御意見もなければ、この案に対しても採決をいたします。この案に対して賛成の方の手を願います。

○委員長(下條康麿君) 全員一致と認
〔総員挙手〕

昭和二十三年七月十四日印刷

昭和二十三年七月十五日発行

委員

岩崎正三郎君
吉川末次郎君
北村一男君
平野善治郎君
深川タマエ君
小野哲君
伊達源一郎君
山崎恒君
千田正君
西田天香君

めます。本案は可決せられました。
員の御署名を願いたいと思ひます。

〔多数意見者署名〕

○委員長(下條康麿君) 尚この案の委員長報告につきましては委員長に御一任を願いたいと思ひます。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(下條康麿君) それから決算の方の審査の予定を作りましたから、かような方法にいたしたいと思ひます。昨日御出席にならない方もございましたから申上げますが、從來決算の審査は分科に付託しておつたのであります。が、第一回國会における経験によりまして、分科会に御出席の方が極め少ないので、むしろ委員会自体でやつた方が適当であろうというふうに考
えております。衆議院においてもそういうふうにやつております。で、今回は決算委員会を直接全部審議に当りますが、第三回國会における経験によ
りまして、少いので、むしろ委員会自体でやつた方が適当であろうというふうに考
えております。衆議院においてもそういうふうにやつております。で、今回は決算委員会を直接全部審議に当りますが、第三回國会における経験によ
りまして、少いので、むしろ委員会自体でやつた方が適當であろうといふうに考
えております。衆議院においてもそういう

政府委員

通信政務次官 下條恭兵君
(商工事務官)
細井富太郎君

説明員
(生活物資局長)
選信大臣高房長
秘書課長 山岸重孝君

西田天香君